

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ささえ	代表者	笠嶋信夫	法人・事業所の特徴	通いサービスや訪問サービスの予定は決まっていますが、施設全体を一つの地域と捉え24時間・365日、困った時は勿論、困っていない時も、いつでも気軽に立ち寄れる居場所の様な事業所を目指します。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ささえ2号館	管理者	鮎川律子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	オンラインやリモートを使って、オフラインでも会議や研修を行う。	徐々に規制を緩和して、会議を行うおとする姿勢が感じられた。	運営推進会議にフロア長も参加してくれたので、雰囲気がよくわかった。 施設内を見学した際、職員や利用者が明るく挨拶をしてくれた。	スタッフ全員が一致団結をしてより良い事業所を目指します。 事業所内の様子や雰囲気を知ってもらうためにも、地域との交流を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	今後も感染症対策を行うが、コロナ禍であっても、利用者が安心して楽しめる居場所をつくる。 認知症を理解し安全な環境を提供する。 草花を増やし、利用者様に世話をさせていただき、役割と楽しさを提供する。	利用者様の作った作品が随時展示され楽しめる。 利用者の写真が飾られていて、利用者も見て楽しんでいた。	施設内は清潔で明るい雰囲気と思う。 建物が新しく施設っぽい印象。玄関等、掲示物を工夫して、気軽に入れるような雰囲気があるとよい。	月に1度の行事に地域の方のにも参加して頂きたい。 困りごとがあった時に、気軽に立ち寄れるように看板を出すなど、明るい雰囲気作りをする。
C. 事業所と地域のかかわり	外気浴や散歩中には笑顔で挨拶を心がける。 地域の行事に参加する。	利用者を連れて、スーパーまで買い物へ行った。 コロナの影響が大きく、外部の方とは距離をとる活動に留まった。	地域の行事が中止になっているため参加出来なかったが、夏祭りや盆踊りは酸化したいと考えている	施設内の行事で「カフェ」や「集い」を計画し、地域の方を招き入りたい。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ状況にもよるが、コロナが終息した時に備え準備を行う。	地域のイベント事態が中止になり、再開を待っている。 内部では、制限を行わず、自由に行き来をして交流が出来た。	会議に参加は難しかったが、皆さんが集まった中で、職員同士話が出来、なんでも言える雰囲気になっていた。	ご家族様の協力も必要だが、ご利用様を戸外に出て季節を感じてもらいたい。

E. 運営推進会議を活かした取組み	入居や事業所利用開始時に「運営推進会議」についての説明を具体的に言い、参加を促す。ご家族に直接出席依頼を行う。	運営推進会議が今年になってから実施出来ている。利用者の様子や全体の雰囲気は上手く伝わっていると思う	会議では活発な意見交換が出来ていると思う。家族や本人、現場の職員に参加して頂きたい。	運営推進会議に家族や本人、現場の職員等色々な方に参加してもらおう。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の訓練のうち1回は地震を想定して行う。	訓練の計画や準備、周知が出来ていて、速やかに行えている	利用者同士協力し、参加してくれた。	火災と地震・日中と夜間の設定をかけ訓練を行う。出火場所や避難経路、集合場所の設定を変え訓練を行う。